

「学修評価シートの見直しと活用について」

日時：令和3年1月12日（火）10：40～12：10

場所：A205 教室

担当：村上知子、米川祥子、森田ゆかり

参加者：太田、吉岡、ウエスタハウト、百海、中村、三浦、柴田、上野、水上、山田、村上、米川、森田

今年度、幼児教育学科3回目のFD・SD研修会である。今回は以下の件について話題提供があり、教員間で話し合った。

(1) 「学習評価シート」見直しの必要性について 話題提供：森田

昨年度作成し今年度を経て、以下の理由で、より成果が高まるように今後修正を加えていくことが必要であることが提案された。

・自己点検評価室より（12/18 第8回会議）

・⇒「学修評価シート」の評価指標・学習成果（達成目標）と、「シラバス」のディプロマポリシー・評価方法が適切にリンクしているか？

・学科によっては、学習成果（達成目標）自体の見直しも視野に検討していく必要がある。

⇒キャンパスガイド2019.2020年度入学生（現1.2年生）版で示している15項目で妥当か。

見直す必要があるのではないか？ 先ごろの「認証評価」でも、学習成果（達成目標）の項目を見直しているのか？という指摘があった。

特に幼児教育学科では「シラバス」に示したディプロマポリシー・評価方法と、学修評価シート「ディプロマポリシーを元にした学習成果（達成目標）の項目」の重点目標として示されている◎○をリンクさせる必要があるため、15項目の学習成果を見直す検討が話し合われた。

(2) これまでの経緯についての解説 話題提供：森田

現行の「学習評価シート」は、2011年度から活用してきた「保育力向上確認シート」（「履修カルテ」と連動）を、3学科共通にするため十分に検討する時間がない中で転用したものである。そのため学修評価シートの授業評価が、学習成果（達成目標）の項目と適切に対応できていない。学生からも客観評価の数値に対して不審の声があり、教員としても実態と合っていないように感じている。そのため、この項目は◎で自分なりにできていたのになぜこの評価が付いているのか？ という声が学生から聞かれたため、見直す検討を提示することとなった。

(3) 現行の学習評価シート 学習成果（達成目標）項目の見直しを提案 話題提供：森田

これまで、社会性（1）の③気持ちの良い挨拶を行うことができる。④その場に応じた礼儀・服装を心けている。⑤時間・期限を守る。という3項目の客観評価に一番のズレを感じたため、学習評価シートの達成目標から外し、「幼児教育学科学生心得」とするとかなりすっきりとした印象になる。そして、外した3項目を保育力向上確認シートより入れ替え、全15項目とする。この学習評価シートは学生が見るものであり、分かりやすくする必要がありという意見も聞かれ、修正案として2020年度入学生（新1年生）版を検討したい。

以下、話題提供を受けて全 15 項目の見直し検討が話し合われた。

◆人間性 (3) 多様な社会に対応できる豊かな人間性と人間関係力

① 自分の性格や行動について見つけ、よくしていきたいという気持ちがある。

下線部は、ビジネス、美術学科も使用していることから、理解しているとした。

② 課題などに前向きに取り組む姿勢がある。

・①を2つに分ける方が「人間性」のカテゴリーに合うとの意見が出され、「自分をよくしていきたいという気持ちがあり、具体的な目標を持っている。」とした。

◆社会性 (1) 多様な文化に対応できる幅広い教養

③ 社会状況に対して積極的な興味・関心を持ち、考えを深めることができる。

④ 自然環境に対して積極的な興味・関心を持ち、考えを深めることができる。

⑤ 聞いたこと、学んだことなどをまとめ、考えを深めることができる。

・下線部を「表現することができる。」とすれば、表現の中には歌うことや書くこと等も含まれ、多様な文化に対応、の目的に合う。

◆社会性 (3) 他者と良好な信頼関係を築く力

⑥ 他者(仲間、子ども、地域住民など)と関わる場に参加している。

⑦ 他者の立場や気持ちを考えて行動している。

⑧ 他者と協力して活動を行うことができる。

⑨ 自分の考えを伝えることができる。

・⑧は「協力」を「協働」とし、「行うことができる」から、「活動をすることができる」とし、「他者と協働して活動することができる。」とした。また⑦⑧は同じであるため、⑧を移動し⑪とした。⑨は⑤と同じ意味であり省くこととした。

◆専門性 (2) 幼児教育に関する知識・技能の習得

⑩ 子どもの心身の発達や対応についての知識を持っている。

⑪ 子どもの心身の発達援助や対応についての技能を持っている。

⑫ 保育者としての使命感、倫理観、責任感を理解している。

・⑧⑨で修正されたため、⑩⑪⑫を⑧⑨⑩の順番に変更した。

◆専門性 (4) 幼児教育の課題に応じた活用力

⑬ 授業や実習の経験から、自分の課題を見出すことができる。

⑭ 教育・保育に必要な知識・技能を高める努力をしている。

⑮ その場に応じた柔軟な対応ができる。

・順番変更に伴い、⑧から移動した⑪が最初に。⑬を⑫、⑭を最後にし、⑮を⑬とした。

上記の変更を受け、今後は記載のみでなく、この項目に関して学生に補足する時間や、各科目で◎や○について、授業の達成目標だということを説明する必要があることを共通認識していかなければならないことが挙げられた。また、各科目の担当教員が変更になっても、それぞれの科目の◎や○の達成目標は変更がない形式にしていきたい。という意見も聞かれた。

最後に、新たに示された 14 項目の学修評価シートに、各教員が担当する科目を当てはめ、◎と○を 3 個ずつ付け、シラバス作成に生かしていくこととした。